

事業報告書

2024(令和6)年度

社会福祉法人 あかりの家

社会福祉法人あかりの家 事業報告

1. 法人理念

自閉症や発達障害のある方々への総合的な支援をより一層充実させるため、「自閉症総合援助センター」として地域における役割を果たせるよう、法人内の各事業所との連携を強化し、高度で専門的な支援の展開に努めた。

2. 事業内容、事業所沿革

	事業所名	サービス	定員	事業開始年月日
1	障害者支援施設 あかりの家	生活介護	40	1986 (S61) 年 4 月 1 日
		施設入所支援	40	
		短期入所	6	1986 (S61) 年 9 月 1 日
		日中一時支援	10	※3市2町 2006 (H18) 年 10 月 1 日
	【委託事業】	障害児等療育支援事業		兵庫県 2007 (H19) 年 4 月 1 日 姫路市 2008 (H20) 年 4 月 1 日
		被虐待障害者一時保護支援業務		高砂市 2013 (H25) 年 6 月 1 日 稲美町 2017 (H29) 年 3 月 1 日
		強度行動障害地域生活支援事業		兵庫県 2019 (R1) 年 10 月 1 日
2	児童デイサービス ふたば	児童発達支援	10	2012 (H24) 年 1 月 1 日
		放課後等デイサービス		
3	児童デイサービス つぼみ	児童発達支援	10	2023 (R5) 年 4 月 1 日
		放課後等デイサービス		2022 (R4) 年 4 月 1 日
		保育所等訪問	—	
4	ワークホーム高砂	生活介護	12	2003 (H15) 年 4 月 1 日
		就労継続支援 B 型	28	
		日中一時支援	2	高砂市 2024 (R6) 年 12 月 1 日 (再開)
5	納豆工房 なっとこちゃん	生活介護	10	2022 (R4) 年 1 月 1 日
		就労継続支援 B 型	10	2022 (R4) 年 10 月 1 日
6	グループホーム 希望山荘日笠	希望山荘日笠	10	
		オリーブの家	7	2015 (H27) 年 4 月 1 日
		友愛の家	6	2017 (H29) 年 4 月 1 日
7	地域支援センター あいあむ	障害者計画相談	—	2012 (H24) 年 4 月 1 日
		障害児計画相談	—	
		地域移行	—	2013 (H25) 年 4 月 1 日
		地域定着	—	
	【委託事業】	障害者等相談支援コーディネート事業		兵庫県 2007 (H19) 年 10 月 1 日
		障がい者基幹相談支援センター 運営業務		高砂市 2019 (H31) 年 4 月 1 日
		障害者自立支援協議会運営業務 (だれでも立ち寄りステーション)		高砂市 2013 (H25) 年 6 月 1 日 (2024 (R6) 年 4 月 1 日)
8	発達障害者支援 センター クロバー	【委託事業】	—	兵庫県 2003 (H15) 年 12 月 1 日

(※) 3市2町 高砂市、姫路市、加古川市、播磨町、稲美町

3. 理事・評議員関係

①理事、監事、評議員、選任解任委員、第三者委員（順不同、敬称略）

・理事 6名

三原憲二（理事長）、三木正子、齋藤克己、坊垣勝彦、長谷川博信、藤原通代

・監事 2名

中野直子、山本弘幸

・評議員 7名

井野隆弘、池内淳、川本知代子、梅谷正太、藤野洋一、岡田章、西本好道

・評議員選任解任委員 3名

野一洋、中野直子、原冴佳

・第三者委員 2名

川本知代子、高尾剛一

②理事会開催

開催日	出席者数	
	理事	監事
令和6年 6月 4日	6	2
令和6年12月 4日	6	1
令和7年 3月 6日	6	2

③評議員会開催

開催日	出席者数			
	評議員	理事	監事	事務局
令和6年 6月19日	5	5	2	4
令和7年 3月24日	7	6	2	4

4. 令和6年度補助金

・兵庫県/障害者施設原油価格・物価高騰対策一時金	991 千円
・中小企業基盤整備機構/IT 導入支援事業費補助金	591 千円
・兵庫労働局（職業安定局）/特定求職者雇用開発助成金	233 千円
・兵庫県/運営交付金	72 千円

5. 施設整備、備品購入関係（100 千円以上）

	項 目	事業所名	内 容	金 額
1	土地	あかりの家	8/30 高砂市北浜町北脇字中山田 524 番地 (1837 m ²)	5,000 千円
		〃	8/30 農地法第 3 条許可申請	286 千円
2	車両	つばみ	6/7 ダイハツミライス (97-85) 中古車購入	555 千円
		友愛の家	7/25 シェンタ中古車購入	1,430 千円
		ワークホーム高砂	2/28 ステップ ワゴン (1504) 中古車購入	1,947 千円
3	備品	あかりの家	4/30 リンパガス高速オープン	426 千円
		〃	7/31 天吊りエアコン（軽作業棟）	400 千円
		〃	7/31 天吊りエアコン（厨房）	911 千円
		〃	9/25 電話設備工事一式	1,308 千円
		〃	10/29 就業大臣 NX クラウド	1,490 千円
4	修繕工事	あかりの家	5/31 駐車場西側隣地雨水排水路整備工事	275 千円

〃	5/31	ポンプ室バッテリー交換工事	341 千円
〃	6/30	電灯幹線入替工事	557 千円
〃	7/31	浄化槽放流ポンプ配管変更工事	160 千円
〃	12/23	駐車場砕石敷込み工事	2,186 千円

6. 職員関係

①職員配置数

2025 年 3 月 31 日現在

事業所名	あかりの家	児童デイ	希望山荘日笠	ワークホーム高砂	納豆工房	あいあむ	クローバー	計
正規	44	2	7	8	4	6	4	75
嘱託	3	3	2	1	1	3	0	13
パート	5	1	10	6	5	5	0	32
計	52	6	19	15	10	14	4	120

※兼務カウントなし・主の従事する事業所のみでカウント

②職員平均勤続年数

2025 年 3 月 31 日現在

	正規職員	嘱託職員	パートタイム職員
男性	11 年 3 か月	—	24 年 2 か月
女性	8 年 5 か月	9 年 10 か月	12 年 9 か月

③採用した労働者に占める女性労働者の割合

2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日までの採用者

	正規職員	嘱託職員	パートタイム職員	計
男性	1	0	0	1
女性	5	1	7	13
計	6	1	7	14
女性割合(%)	83	100	100	93

7. 求人活動

(1) 2025 年 3 月卒 (2025 年 4 月採用) 支援員等求人

①インターネット求人サイト「マイナビ」を活用

◇登録者数 45 人

◇採用説明会参加者： 5 人、採用試験受験者： 3 人 採用者 1 名

②社協主催福祉の就職総合フェアに参加 (7 月・3 月、神戸)

③職業紹介事業所 1 名

(2) 中途採用 (全職種)

①職業紹介事業所 正規職員 1 人

②他 嘱託職員 1 人 パート職員 1 人

8. 法人研修

日 時	研 修 名
6 月 22 日	事例研究会 (講師：ノートルダム清心女子大学人間生活学部准教授 青山新吾氏)
7 月 9 日	感染症対策研修 (講師：高砂市民病院感染管理認定看護師 中島博美氏)
12 月 7 日	虐待研修
12 月 7 日	ハラスメント研修 (講師：特定社会保険労務士 室田俊一氏)
2 月 11 日	強度行動障害地域支援事業報告会 (兵庫県主催)
2 月 11 日	ひょうご発達障害者支援センター 開設 20 周年記念講演会

9. 広報

- ・ ホームページ 2013 年 7 月 18 日（3 回目リニューアル）
2025 年度は 4 回目のリニューアル予定
- ・ あかりだより (No.34) 8 月 600 部発行

10. その他

①研修受講

- ・ 5 月/2 月 安全運転管理者講習会
- ・ 10 月 社会福祉法人研修会

②自己啓発研修

- ・ 研修参加 6 件 図書購入 2 件 ネット購入補助 7 名

③ ICT 機器導入について

厚生労働省より、ICT の活用等による「生産性向上（業務改善および働く環境の改善）」に関する取り組みの実施が求められている。

社会福祉法人あかりの家では、情報の共有を図ることで業務を円滑に進めることができる環境づくりを目指し、ICT の積極的な導入を進めている。業務支援ソフトや情報端末の導入により、日々の業務の効率化と情報の一元管理、職場環境の整備を図っている。

● 情報共有ソフトの活用

Office365 の構成を見直し、「Microsoft Teams」を法人全体の情報共有ツールとして活用している。会議資料や連絡事項のやり取りなどを Teams 上で行うことで、紙媒体の削減や情報の行き違いの防止を図っている。

また、これまで SV（サーバー）で管理していたファイルデータについては、クラウドストレージへ順次移行を進めており、SV 機器の保守・更新費用の削減を見込んでいる。

● 勤怠管理のクラウド化

クラウド型の勤怠管理ソフトを導入することにより、パソコンやスマートフォン・タブレットなどから、いつでもどこでも出退勤の打刻、有給休暇の申請・承認が可能となった。現在は、業務管理などのさらなる効率化を図るため、システムの整備を進めている。なお、ソフトの導入費用については、補助金を活用した。

①打刻管理ソフト

導入日：令和 6 年 3 月 25 日

費用：992,076 円（税別）

補助金：兵庫県 ICT 導入支援補助金 742,000 円

②勤怠集計管理ソフト

導入日：令和 6 年 10 月 29 日

費用：1,361,000 円（税別）

補助金：中小企業等 IT 導入補助金 594,250 円

障害者支援施設 あかりの家 事業報告書

I 利用者状況（'25 年 3 月 31 日現在）

1 定員と現員 2025 年 3 月 31 日現在

定員	現 員
40 名	施設入所 40 名（男 31、女 9）
	生活介護 48 名（男 39、女 9） 入所者 40（男 31、女 9）、通所者 8（男 8、女 0） 通所内訳：自宅から 2、GH 友愛の家から 5、ショート系 1

内、入所利用者 1 名は、あかりの家の「生活介護」に籍を残したまま、日中は WH 高砂の「就労 B」を利用。生活介護利用者は、48 名とあるが、1 日当たり 40 名を超えることはない。

2 利用者出身地（受給者証発行市町） 2025 年 3 月 31 日現在

実施機関	利用者数		実施機関	利用者数	
	入所者	通所者		入所者	通所者
高砂市	3	3	神戸市	10	
加古川市	14	1	尼崎市	2	
播磨町	3	1	名古屋市	1	
姫路市	5	1	枚方市		1
小野市	1		神河町		1
加東市	1		合 計	40	8

3 利用者年齢（ ）は、通所者で内書 2025 年 3 月 31 日現在

年齢	10 代	20 歳代		30 歳代		40 歳代		50 歳代		60 歳代		合計 (人)
	～19	～24	～29	～34	～39	～44	～49	～54	～59	～64	～69	
男	0	1(1)	1(1)	1	3(2)	2(1)	5(1)	13(1)	10(1)	3	0	39(8)
女	0	0	0	1	0	0	0	3	4	0	1	9
合計 (計)	0	1(1)	1(1)	2	3(2)	2(1)	5(1)	16(1)	14(1)	3	1	48(8)
	0	2(2)		5(2)		7(2)		30(2)		4		48(8)

最年少 24 歳、最年長 70 歳、平均 50.7 歳（入所利用者平均年齢 52.8 歳）

4 障害等の程度（ ）は通所者で内書 2025 年 3 月 31 日現在

(1) 知的障害の程度（「療育手帳」の判定による）

	重度(A)	中度(B ₁)	軽度(B ₂)	合計(人)
男	38(8)	1	0	39(8)
女	9	0	0	9
計	47(8)	1	0	48(8)
比率	97.9%	2.1%	0%	100%

(2) 障害支援区分 平均支援区分 5.63

	区分 6	区分 5	区分 4	区分 3	合計(人)
男	30(5)	6(2)	3(1)	0	39(8)
女	5	4	0	0	9
計	35(5)	10(2)	3(1)	0	48(8)
比率	72.9%	20.8%	6.3%	0%	100%

(3) 自閉症または自閉的傾向を有する者

	男	女	計
入所	30 名／31 名	5 名／9 名	35 名／40 名
通所	8 名／8 名	0 名／0 名	8 名／8 名
合計	38(8)人／39(8)人中	5 人／9 人中	43(8)人／48(8)人中
比率	97.4%	55.6%	89.6%

(4) 重度加算

	入所		通所		総計
男	30 人	96.8%	6 人	75.0%	93.8%
女	9 人	100%	—	—	

5 入退所の状況(あかりの家在籍者)

	年度	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	00	01	02	03	04	05
入所	入	38	5	5	4	5	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1
	退	1	7	2	5	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1
通所	入														11	0	0	1			
	退														0	0	0	12			
合計	入	38	5	5	4	5	2	0	1	0	0	0	0	0	11	0	0	1	0	2	1
	退	1	7	2	5	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	2	1

	年度	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	計
入所	入	1	1	0	2	1	0	2	0	0	0	0	3	0	0	0	1	0	0	1	75
	退	2	0	1	1	1	1	1	0	0	0	1	2	1	0	0	1	0	0	1	35
通所	入			1	0	1	0	2	3	0	1	0	4	1	0	0	0	0	1	0	26
	退			0	0	1	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	16
合計	入	1	1	1	2	2	0	4	3	0	1	0	6	1	1	0	1	0	1	0	101
	退	2	0	1	1	2	1	1	0	1	1	1	3	1	0	0	2	0	0	0	51

- 6 在籍年数(通所者含む。通所から入所等への移行者は通算。4/1入所は翌年3/31で在籍満1年とする)
- 全利用者平均在籍年数 27.6年 / 男子平均年数 27.2年 / 女子平均年数 29.4年
- 入所者平均在籍年数 30.5年 / 入所男平均年数 30.8年 / 入所女平均年数 29.4年
- 通所者平均在籍年数 13.5年 / 通所男平均年数 13.5年 / 通所女平均年数 ー 年

II 事業・支援の実施状況

1 事業推進の考え方

障害者支援施設あかりの家では、開設当初に入所し50歳を越えた利用者の多くが、長年にわたる行動障害への支援(療育)や環境面の配慮、職員との信頼関係の構築等により、今では、概ね落ち着いて生活できている。一方で、年を取り体力が衰えたことによる体調や行動の変化も見られている。これまでは自閉症・行動障害等の課題に向き合ってきたあかりの家が、今後は高齢虚弱化の問題にも取り組んでいくことになる。保護者の高齢化も進み、帰宅できない利用者や面会日に来園できない保護者も増えている。より一層、利用者の心豊かな暮らしを追求したいと考えている。

あかりの家の障害者支援施設としての役割は、利用者の暮らしを守ることであり、人生を応援すること、そして、地域で暮らす自閉症・行動障害を持つ人たちが困ったときに支援することである。これら考え方のもと、自閉症支援の専門性の追求を基本的なテーマとして事業推進した。

2 利用者支援関係(特記)

高齢化、それに準じた状況にある方が増えている。体力・筋力の低下、姿勢変化など加齢に伴う身体的な変化によって日常生活の中で、転倒やふらつきによる怪我や食事、唾液等による誤嚥性肺炎などの予見をしながら見守る必要がある。骨粗鬆症、嚥下や咀嚼、高齢化への介護的な支援が徐々に必要となってきた。そのような中ではあるが、昨年度から再開している様々な施設外活動(レインボーデイ、一泊旅行、休日の外出:買い物、整髪、飲食)は、楽しみとしての活動であり、生活の質を高めるものであるという認識のもと、状態に合わせた形で、継続して行った。

3 行事関係

(1) 主な行事(スポーツ行事を含む)

月	行 事 名	月	行 事 名
5	のじぎくスポーツ大会(利用者8名・職員6名)	11	高砂マラソン(利用者4名・職員3名)
	ばんたん親善運動会(利用者3名・職員3名)		第33回ナイスハートバザール(高砂アスパ)
8	あかり祭り(利用者・職員でさつま芋・バナナマフィンを作り、保護者に提供)	12	忘年会(利用者の年間行事のスライドショーを作成し、保護者が観賞)
10	一泊旅行(利用者と職員で実施。神戸須磨シーワールド、淡路島へ)	1	年始行事として、書初め会を実施し、作品を保護者に見ていただく。

(2) グループ別小旅行「レインボーデイ」

小グループ(原則利用者2人に支援員2人)に分け、各担当の企画で県内外を日帰り旅行。「療育の成果を生活に返していく」趣旨で、公共交通機関(電車、バス)を使用して実施。身体に負担のかかる利用者等は公用車利用。

4 作業関係(月曜日午後、火曜日から金曜日の午前午後作業)入所40名 通所8名 計48名

(1) 施設内作業

割り箸班	11人	地域交流ホーム。割り箸の袋詰め、雑貨品の袋詰め等。 作業提供：(株)マスキ等。
さをり織り班	6人	さをり作業棟。さをり糸(一部播州糸、帆布糸)を利用して反物織り。 製品化は、ボランティア「さをりの会」(保護者)や職員による。
余暇班	6人	1F サロン。個別活動(さをりの糸くり、ビーズアート、塗り絵等)、 厨房のお手伝い(野菜の皮むき)。
軽作業班	10人	軽作業棟。コイルから銅線の巻取り、リサイクル作業。 作業提供：(有)ハタリサイクルファクトリー。
FW班	7人	さをり作業棟。フルーツキャップ(緩衝材)のセット作業 作業提供：(株)FW兵庫。
マスキ班	7人	軽作業棟。割り箸袋詰め作業

(2)施設外作業

WH高砂	2人	WH利用者として、クリーニング作業に従事。1人が毎日車で送迎(就労継続B型)、もう1人が週2回グループホームより通所(生活介護)
------	----	--

(3)バザー(作業製品展示・販売等)

6/22	イオン高砂周年イベント	イオン高砂店	さをり織り商品の販売。
12/14.15	第33回 あかりの家 ナイスハートバザール	イオン高砂店	さをり織り商品の販売。利用者による さをり織りの実演と見学。

5 健康管理(医務)

(1)入院の状況(特記)

<Aさんの経過を報告>

2021. 11月 甲状腺悪性リンパ腫と診断。

体重減少がみられたり、しんどそうな時もあったが、定期的に受診し、経過観察していた。

2024. 8月～12月

食事形態の調整をしても、むせが目立つようになる。誤嚥性肺炎で入院(その後退院)。腫瘍が大きくなっているため、嚥下が難しいとのことで、胃ろう造設。注入や訪問看護を受けながら、あかりの家で療養。

12月31日 加古川医療センターに救急搬送。

2025. 1月19日 高砂市民病院緩和ケア病棟への転院が決まっていたが状態悪化し、加古川医療センターにて死亡。

(2)健康診断(年2回)

再検が必要な利用者には協力医院である井野病院で、血液検査やCT検査、心電図等を受け、結果は必ず保護者に説明している。

今年度は、肝機能障害3名(てんかんの薬の影響や経過観察)、脂質異常2名(治療中1名、経過観察1名)、心電図異常4名(大きな異常なく、経過観察)、貧血8名(うち2名内服、1名注射治療中、他は経過観察)であった。

(3)新型コロナウイルス等感染症予防

新型コロナワクチンは1名のみ3回接種まで、他の利用者は6回目まで接種済み。

対策として、手洗い、消毒、換気やマスク着用をして予防に取り組んでいる。2024年7月、今年度も感染症対策研修を実施し、知識を周知できるようにした。

しかし、11月帰省明け～11月末と1月帰省明け～1月末に新型コロナウイルス感染症が発生。11月は利用者6名、職員2名、1月は利用者30名、職員11名が感染した。体の弱い利用者の感染もあったが、重症化することなく、無事に乗り切ることができた。

(4)歯科検診

朝、昼、夕の食後には一人ひとり丁寧に歯磨きを実施している。

毎月実施していた歯科検診(歯石除去、歯磨き、フッ素塗布)は、1月のみコロナクラスターのため中止した。治療が必要な方は通院し、異常が起きやすい方は日々の歯磨き強化をするなど、口腔内の健康維持に努めた。

(5)痔、腰痛対策

痔対策は予防としての便秘対策も含め、悪化防止に努めていく。腰痛については数名通院し、結果、胸椎圧迫骨折と腰椎圧迫骨折が発見されることがあった。今後も腰痛があれば、その可能性も含めて注意していく。ただ、腰痛は原因不明のことも多く対症療法になる事が多いため、予防に取り組んでいく。(冷やさない、正しい姿勢の保持等)

(6)骨密度測定

今年度は骨折者(圧迫骨折含む)が4名。うち骨粗鬆症を指摘された方が1名。今後も加齢に伴って増える可能性がある。異常がない方も定期的に骨密度を測定し、予防に努めていく。骨粗鬆症治療中(注射や内服薬)の5名に関しては、定期的に骨密度測定を実施し改善傾向か、横ばいである。

(7)排便対策

精神科薬内服者が多いため便秘が多い。利用者によっては便秘薬を内服していても排便がない方、薬の効きすぎで下痢になる方もいる。便秘や下痢はQOLの低下につながるため、毎日排便記録をとり、便秘や下痢の際は主治医の指示の範囲内で薬の増減を行った。

(8) 血圧測定

血圧に異常がない方も順番に2週間に1回ずつ血圧を測定している。そのおかげで前年度も1名の血圧異常を発見し、通院・治療へつなげることができた。今後も加齢に伴って増えてくる可能性があるため、早期発見につなげていく。

(9) 整体

毎週木曜日、居室にて13:30から1名10分～15分程度、腰痛や筋緊張の高い人を中心に6人が、柔道整復師の先生にマッサージ等を受けている。今年度も月1～2回のペースで実施した。職員研修としても位置づけ、利用者が生活しやすいようになるための身体の動かし方、日常に取り入れられる働きかけのノウハウやそのヒントを得ている。

6 給食(厨房)

利用者個々の健康維持増進に配慮した安心で安全な給食提供

(1) 年間実施食数

	利用者	ショート	友愛	職員	総食数
全月計	56,816	3,032	2,466	5,838	68,152
月平均	4,734	252	205	486	5,679

(2) 栄養ケアマネジメント

対象者	実施期間	モニタリング実施
利用者 40名	通年	6月、9月、12月、3月
低リスク 40名	中リスク 0名	令和6年度計画変更者 2名

(3) 取り組み内容

- ①行事食(秋祭り、年始行事、節分、ひな祭り等)、②手作りおやつ:毎水・日曜日提供、
③栄養ケアマネジメント、④厨房会議(月1回)、⑤給食会議(8月、12月、3月)、
⑥災害食提供訓練:非常食・飲料水・備品・デスポ容器を備蓄、⑦お楽しみメニュー

Ⅲ 職員研修

1 専門研修

(1) あかりの家職場内研修

理事長を講師として、講話「知るシリーズ」を傾聴し、あかりの家の療育・支援について理解を深めた。

- ①「知る1:志」あかりの家の療育の歴史(8/9)
②「知る2:理解と技術」あかりの家の自閉症理解と支援技術(12/27)
③「知る3:チーム」チーム作りの〈重層性〉と〈間口の広さ〉(3/29)

(2) あかりの家法人事例研究会(6/22(土))

ASD(自閉症スペクトラム障害)の人たちの支援には「生涯援助」の視点が欠かせない。「自閉症総合援助センター」は各ライフステージに沿って、あるいはその時々々の状態や状況に応じて、高度な専門性と総合的で多様なニーズに対応するために必要とされる、総合的な援助体制である。(社福)あかりの家では、2016年の設立30周年を機に自閉症総合支援センターを名乗り、総合的支援を推進している。

事例研究会は、ASDの人たちへの自分たちの実践の共有を深め、希望ある次世代の育ちの場(その為に先輩も力を高める)として、また法人内の事業所間連携による丁寧な利用者支援を図ることを目的として開催した。今年度のテーマは「自閉症児者の地域生活」。

(3) 療育研修(2000年10月開始)

① 第1回 10/27

・「成功させて信頼関係を築く」をテーマに1Fが発表

② 第2回 2/16

・「2、3年目の職員の育ちを5年目職員がサポートしていく」をテーマに2Fが発表

事前資料を作成しスーパーバイザーの先生に送付。当日、ケース会議を行い、日常の支援に活かすポイントやエッセンスについて指導、助言いただいた。

(4) 学習会・相談日(週末帰宅の土曜日午後3時間の支援員研修)

嘱託医を講師として、利用者に関する療育相談及び学習会を年8回実施した。

2 新任職員研修(OJT:新任研修プログラムによる年間研修)

月	研修内容
4	各部署レクチャー実施(部長、事務、医務、調理、防災、各作業班、給食保険衛生部会長レク)。先輩職員から勤務形態に応じてレクチャーを実施。
5	“基礎体力をつける”のレポートを提出。
6~3	保護者通信「あかりっこ」作成(新任支援員で持ちまわり)
8	期末レポート(自分の課題と質問)
6~2	課題レポート
10	青山先生のDVDを見る。レポート作成。
12	期末レポート(自分の課題と質問)
3	新任研修終了レポート(学んだこと、これからの意気込み)

Ⅳ 虐待防止・防災・安全衛生

1 虐待防止

- (1) 法人虐待防止委員会(年4回開催)
- (2) 虐待防止マネジャー連絡会(年5回開催)
- (3) 虐待防止・身体拘束適正化研修
法人の虐待防止・身体拘束適正化委員会の企画として、“自分の支援を振り返り共に語ろう”をスローガンに、グループワークも含めた研修会を実施した。

2 防災・安全衛生

- (1) 事業継続計画(BCP)研修
事業所における想定される災害の被害状況および基本的な対応等を職員で共有することを目的に、BCP等の報告を含めた研修会を実施した。

(2) 保健衛生関係研修(主なもの)

月	研修内容	研修地
7	感染症対策研修 (講師：高砂市民病院感染管理認定看護師)	あかりの家

(3) ハラスメント研修

法人職員が働きやすく、気持ちの良い職場を作っていけるようハラスメントに対しての正しい知識を学ぶことを目的に、特定社会保険労務士を講師に招き、研修会を実施した。

(4) 運営・管理・経営にかかる研修(主なもの)

月	研修内容	研修地
5・2	安全運転管理者講習会	姫路
10	社会福祉法人研修会	神戸
12	県社協・アンガーマネジメント・ハラスメント防止研修	神戸

Ⅴ 広報・地域交流

1 広報(ホームページ、発刊物等)

	発行月	発行部数	配布対象
保護者通信「あかりっこ」 No.411～No.422	毎月	各100部 延1,000部	保護者、法人役員・評議員、後援会役員、採用内定者、ボランティア等
「あかりだより」No.34	8月 (年1回)	600部	保護者・職員、後援会員、地域関係施設・全自者協施設・関係機関等

2 施設見学受入・・・13件32人(内、県外1件2人)

PTA・保護者	福祉事業所	教育・保育	行政・議員	地域関係者	当事者
件	人	件	人	件	人
7件	20人	2件	5人	4件	7人

3 実習受入

(1) 学生、施設職員、学校先生等・・・件、人、延日

保育実習	1件	2人	延20日
現任訓練(特別支援学校先生、事業所支援員など)	2件	7人	延21日

Ⅵ 地域支援

1 障害児等療育支援事業

(1) 兵庫県

	人・施設	件	障害・施設種別	人・施設	件	障害程度	人・施設	件
訪問療育等支援事業	14	110	自閉症	13	98	重度	13	98
			知的障害	0	0	中度	0	0
			重症心身	0	0	軽度	0	0
			身体障害	0	0	その他	1	12
			その他	1	12			
施設指導事業	5	12	生活介護・就労他	4	11	施設支援指導事業	5	12
			地域活動支援センター	0	0			
			学校・保育園	1	1			
合計	19	122	合計	19	122	合計	19	122

福祉圏域	人・施設	件	利用理由	件
東播磨	18	121	療育相談	122
その他県内	1	1	療育援助	0

(2) 姫路市

	人・施設	件	障害・施設種別	人・施設	件	障害程度	人・施設	件
施設支援指導事業	11	45	生活介護・就労他	9	39	施設支援事業	11	45
			グループホーム	1	5			
			その他	1	1			
合計	11	45	合計	11	45	合計	11	45

市町	人・施設	件	利用理由	件
姫路市	11	45	療育相談	37
			療育援助	2
			その他	6
合計	11	45	合計	45

2 短期入所(介護給付) 31人 延 1209日

利用形態		障害種別		男女・児者		市 町					
形態	日	種別	人	日	人	市町	人	日	市町	人	日
介護給付	1209	自閉	30	1207	男	高砂	3	86	神戸	2	79
私的契約	0		97%	99%	女	加古川	11	310	尼崎	2	23
		知的	1	2	児者	播磨町	0	0	宍粟	0	0
			3%	1%		稲美町	0	0	赤穂	1	44
		難病	0	0		明石	0	0	神河町	1	48
			0%	0%		姫路	9	256	県外	2	352
計	1209	計	31	1209	計	計			計	31	1209

3 日中一時支援事業(地域生活支援事業) 24人、延173日

利用形態	日	種別	人	日	男女・児者	人	市町	人	日
地域生活支援	173	自閉	22	169	男	17	高砂	5	39
			92%	98%	女	6	加古川	10	60
私的契約	0	知的	2	4			姫路	9	74
			8%	2%			播磨町	0	0
		その他	0	0	児	1	稲美町	0	0

4 強度行動障害地域生活支援事業(県単事業:あかりの家指名委託) 2019年10月～

緊急に支援の必要が認められる在宅の強度行動障害者を、短期から中期間集中支援し、再度地域生活に戻る仕組みを構築するとともに、地域での受け皿ともなる事業所の支援員スキルを向上させ、ひいてはこれら障害者の安定した地域生活を実現させることを目的とした事業

【事業実績】①対象者の受け入れ ・人数:2人(男性)、・延べ日数:190日

i) 令和6年9月9日～令和6年12月24日 (106日)

ii) 令和7年1月6日～令和7年3月31日 (84日)

②通所施設等の研修受け入れ・直接支援 3事業所7人・延べ日数:21日

③その他 関係事業所や保護者への支援、見学受け入れ

対象者2名共に受け入れ前より、状態は改善され、家庭や地域の事業所でも安定した生活を送られている。併せて、事業終了者へのアフターフォローとして、定期的、緊急的な訪問や相談支援を行った。

【集中支援協議会】

① 第1回:(開催日)7月26日、(場所)兵庫県民会館、(出席委員)7名

② 第2回:(開催日)10月29日、(場所)兵庫県民会館、(出席委員)7名

児童療育支援センターあかり 事業報告

1. 利用者状況

①定員と現員

	定員	備考欄
つぼみ	10名	定員；児童発達支援、放課後等デイ合算 保育所等訪問については定めなし
ふたば	10名	

②利用者出身地 *児童療育支援センターあかり利用児童として記載（②～⑤同様）

市町	高砂市	加古川市	播磨町	姫路市	合計
人数	37	8	13	6	64名

③年齢

2歳		小1(7歳)	6	中1(13歳)	0
3歳		小2(8歳)	8	中2(14歳)	3
4歳	2	小3(9歳)	5	中3(15歳)	4
5歳	6	小4(10歳)	8	高1(16歳)	4
6歳	5	小5(11歳)	4	高2(17歳)	1
		小6(12歳)	4	高3(18歳)	4
合計		64名			

④障害程度

療育手帳		主たる障害	
無	33	知的障害	18
B2	10	ASD	39
B1	7	AD/HD	6
A	14	その他	1

⑤入退所状況

	入所	退所
年度	2	7
途中	2	4

⑥契約状況 *年度末状況

	児童発達支援	放課後等デイ	保育所等訪問	合計
つぼみ	3名	33名	11名	36名（保訪+11）
ふたば	10名	18名		28名

*保育所等訪問支援利用児童は、児童発達支援と併用利用。

*つぼみ、ふたば両方契約9名。

契約総数64名

⑦事業実績（利用人数）

	つぼみ			ふたば		合計
	児発	放デイ	保訪	児発	放デイ	
4月	12	138	5	35	56	252
5月	10	139	8	42	53	246
6月	11	148	7	39	56	261
7月	11	137	8	41	58	255
8月	11	111	0	44	48	214
9月	15	132	10	45	52	254
10月	18	149	9	47	54	277

11月	13	128	9	50	51	251
12月	12	104	9	38	52	215
1月	15	124	8	47	48	242
2月	14	119	5	38	54	230
3月	13	135	8	44	59	259
合計	155	1564	86	510	641	2956

2. 事業の実施状況

①事業推進の考え方と取り組み

(基本方針)

『大人になった時に自分らしく社会の中で生きていくことができるよう“発達の芽”を療育支援によって育てる』

(事業所運営)

児童療育支援センターあかりとして、2つの事業所（ふたば、つぼみ）を一体的に運営。両事業所で、ニーズが増えている児童発達支援の受け入れを行い、『児童デイサービスつぼみ』は主に小学生、『児童デイサービスふたば』は主に中高校生の受入れ事業所と位置付け。

(支援)

基本的に個別のニーズ、状況に合わせた療育支援を行う。また、年齢、学年等と個々の発達状況を鑑み、将来必要になってくるであろうスキル獲得のための支援を設定。

	支援目的・設定の概要
幼児	発達課題（動作、関係、認知など） *個別療育
小学生	発達課題、社会性や対人関係課題（SST、ロールプレイなど） *個別・小集団
中学生	発達課題、社会に向けたスキルトレーニング *個別・小集団
高校生	発達課題、作業課題、余暇活動課題など *個別・小集団

*保護者支援：家庭での状況などについての相談、所属先の様子や活動状況の把握等
児童の成長を同じ方向で支援していけるように面談、相談を実施

(連携)

幼保こども園、小学校、中学校、特別支援学校との支援会議や意見交換の場を活用した連携を実施。また、特別支援学校等への定期的な相談・支援技術指導、研修会の実施などの実施。

②職員育成

- (研修)
- i) 虐待防止研修 12月7日実施
 - ii) 感染症対策研修 7月9日実施
 - iii) 災害対策（BCP）研修 12月7日実施
 - iv) ハラスメント研修 12月7日実施

③地域交流・地域支援

高砂市福祉総合相談センターなどの施設利用、活動参加
児童作成の壁面作品の展示出品

④広報

- i) 機関紙の発行（5、11月、3月）
- ii) 法人広報誌（8月）

共同生活援助 希望山荘日笠 事業報告

《Ⅰ 利用者状況》

1 定員と契約者数

(単位:人)

事業所	定 員	契約者数
希望山荘日笠	10	10
オリーブの家	7	7
友愛の家	6	6
合 計	23	23

2 市町別契約者数

(単位:人)

市町名	希望山荘日笠	オリーブの家	友愛の家	計
高砂市	6	2	3	11
加古川市	1	0	1	2
播磨町	0	2	1	3
姫路市	3	3	1	7
合 計	10	7	6	23

3 利用者年齢構成

(単位:人)

年齢	10歳代	20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代	合 計
	～19	～24	～29	～34	～39	～44	～49	～54	～59	60～	
男 性	0	0	1	0	2	7	0	6	2	1	19
女 性	0	0	0	0	0	2	0	1	1	0	4
合 計	0	0	1	0	4	8	0	7	3	1	23

4 障害程度

(1) 知的障害の程度(「障害者(療育)手帳」の判定による)

(単位:人)

区分	重度	中度	軽度	なし	合計
男性	17	2	0	0	19
女性	3	1	0	0	4
計	20	3	0	0	23
比率	87%	13%	0%	0%	100%

(2) 自閉症または自閉的傾向を有する者(入所時の諸書類を基に集計)

区分	男 性	女 性	計
人員	13人/19人	1人/4人	14人/23人
比率	69%	25%	61%

(3) 支援区分

	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
希望山荘日笠	0	0	0	5	2	3	0	10
オリーブの家	0	0	0	1	2	1	3	7
友愛の家	0	0	0	0	1	2	3	6
合 計	0	0	0	6	5	6	6	23

5 入退所の状況

入所・・・1名(希望山荘日笠 2025.6.1)

退所・・・0名

《Ⅱ 事業・支援の実施状況》

1 事業の考え方と取り組み

(1) 基本的な考え方

グループホーム「希望山荘日笠」、「オリーブの家」及び「友愛の家」は、自閉症や知的障害の人たちが「その人らしい自立した暮らし」を地域社会の中で実現できるよう支援することを基本に運営する。

支援員や世話人は安心安全なサービスの提供を始め、「グループホームだから出来るかもしれない」ことに創造性とチャレンジ精神をもって臨んでいく。豊かで広がりのある生活に向けて、3つのグループホームが力をあわせ、効果的な事業を展開していく。

(2) 取り組み

①健康管理

要リスクの利用者等を対象に高砂市等の検診を付加的に受診した（胃がん・大腸がん、前立腺がん、肝炎ウイルス、乳がん、子宮がん）。要精密検査の結果が出た方については検査を行い、疾患の早期発見に努めたい。自覚・他覚を問わず、症状に気づきにくい疾患や症状があっても訴えが難しい方も多く継続していきたい

②余暇

新たに2名の利用者が移動支援サービスを開始。また、利用者2名だけの休日外出を実施し、散髪や喫茶店等への外出企画を行った。行先の広がりを見守り続けたい。

また、別事業所の利用者では利用時間を延長し、明石市など遠方へ外出を試行開始した。

③強度行動障害のある方への支援

不安定時に物壊し等が見られる利用者への支援において、①昨年度より精神科主治医、家族、グループホームの3者で毎月情報共有、②課題となる行動がエスカレートする前に頓服等服用、③日中活動を通じた状態の崩れの立て直し等の取り組みを通して、大きな崩れは減少しつつある。

④グループホーム間の連携

隣接する希望山荘日笠と友愛の家において、5月市の池公園にて合同で軽ハイキング、ランチ会を実施した。

2 職員育成

(1) 外部研修

月	研 修 名	場 所	参加者
8月	県知的障害者施設協会 新任監督職研修	神戸	1名
9月	高砂市自立支援協議会 防災研修	高砂	3名
10月	県知的障害者施設協会 看護師研修	神戸	2名
12月	県知的障害者施設協会 支援力パワーアップ研修	明石	1名
R7. 1月	先進事業所見学 (社福) 姫路睦福社 朝日ノ里グループホーム絆	姫路	5名
R7. 3月	全自者協 近畿ブロック研修会	(オンライン)	2名

(2) 事業継続計画

①自然災害 事業所ではBCPの見直しを行い、12月に法人全体でのBCP研修を開催。

②感染症 事業所ではBCPの見直しを行い、看護師による医務会議で法人全体としての動きを確認。
毎月1回、看護師による感染症研修を実施。

3 地域交流・地域支援

(1) 地域支援

月	内容	場 所
R7.1 月	講師派遣 グループホームでの支援について	加古川市事業所
R7.3 月	調査研究協力 強度行動障害の方 GH での支援について (兵庫県知的障害者施設協会)	オリーブの家

(2) 行事

月	内容	場 所
5 月	合同ハイキング	希望山荘日笠・友愛の家 市の池公園
9 月	ポップサーカス見学	希望山荘日笠・オリーブの家 神戸

4 広報

機関紙「グループホームだより」を年 4 回発行し、保護者等に配布。

5 その他

物価高騰を受け、食費等の見直しを実施。令和 7 年 4 月より以下の金額に改定。

<食費>

	旧価格	新価格	備考
朝食	240 円	280 円	+40 円
昼食	330 円	370 円	+40 円
夕食	330 円	370 円	+40 円

多機能型事業所 ワークホーム高砂 事業報告

《Ⅰ 利用者状況》

1 定員と契約者数

(単位:人)

事業種別	定 員	契約者数
生活介護事業	12	9
就労継続B型事業	28	27
合計	40	36

2 市町別契約者数

(単位:人)

市町名	生活介護事業	就労継続B型事業	計
高砂市	2	13	15
加古川市	3	5	8
播磨町	0	5	5
小野市	1	0	1
姫路市	3	4	7
合計	9	27	36

3 利用者年齢構成

(1) 生活介護事業

(単位:人)

年齢	10歳代	20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代	合 計
	～19	～24	～29	～34	～39	～44	～49	～54	～59	60～	
男 性	1	1	2	0	0	2	0	1	1	1	9
女 性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	1	1	2	0	0	2	0	0	1	0	9

	男 性	女 性
最少年齢	18歳10か月	—
最高年齢	61歳0か月	—
平均年齢	39歳4か月	—
男女平均年齢	39歳4か月	

(2) 就労継続B型事業

(単位:人)

年齢	10歳代	20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		合 計
	～19	～24	～29	～34	～39	～44	～49	～54	～59	
男 性	3	2	2	5	4	4	2	1	0	23
女 性	2	0	0	0	0	1	1	0	0	4
合計	5	2	2	5	4	5	3	1	0	27

	男 性	女 性
最少年齢	18歳3か月	18歳0か月
最高年齢	51歳2か月	49歳3か月
平均年齢	31歳11か月	32歳9か月
男女平均年齢	33歳2か月	

4 利用者月別実人員・延べ人数

(1) 生活介護事業

(単位:人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
実人員	9	9	9	9	9	9	9	8	8	8	8	9	104
延人員	155	189	176	185	175	167	160	139	160	145	146	152	1949

(2) 就労継続B型事業

(単位:人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
実人員	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	27	280
延人員	459	502	477	498	492	483	509	480	476	488	433	437	5297

5 入退所・変更契約の状況（年間）

- (1) 生活介護事業 ・ ・ ・ ・ ・ 入所 1名（2025.3.24 新規契約）
退所 1名（2024.10.31 契約終了 他事業所（B型）へ）
- (2) 就労継続B型事業 ・ ・ ・ 入所 4名（2025.3.24 新規契約3名、2025.3.31 新規契約1名）
退所 1名（2024.4.1 契約終了 なっとこちゃんへ1名）

6 障害支援区分

(1) 生活介護事業 (単位:人)

	区分3	区分4	区分5	区分6	計
高砂市	0	0	1	1	2
加古川市	0	1	2	0	3
播磨町	0	0	0	0	0
姫路市	0	0	1	2	3
小野市	0	0	1	0	1
合 計	0	1	5	3	9

(2) 就労継続B型事業 (単位:人)

	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
高砂市	7	0	1	4	0	1	0	13
加古川市	0	0	1	1	2	1	0	5
播磨町	1	0	1	2	1	0	0	5
姫路市	2	0	0	2	0	0	0	4
合 計	10	0	3	9	3	2	0	27

7 知的障害の程度（「障害者（療育）手帳」の判定による）

(単位:人)

区分	重度	中度	軽度	なし	合計
男性	12	16	4	0	32
女性	1	2	1	0	4
計	13	18	5	0	36
比率	36%	50%	14%	0%	100%

8 自閉症または自閉的傾向を有する者（入所時の諸書類を基に集計）

区分	男 性	女 性	計
人員	16人/32人	1人/4人	17人/36人
比率	50%	25%	47%

9 その他の障害、てんかん

(単位:人)

区 分	男 性	女 性	小計	合計
身体	肢体不自由	0	0	1
	難聴	1（1種2級）	1	
精神科薬	てんかん	5	0	5
延べ人数		6	0	6
				12

10 利用者の通所方法

(単位:人)

	徒 歩	自転車	バ ス	J R	山陽電車	付き添い通所	送迎サービス
男性	7	7	0	1	3	3	11
女性	1	1	0	0	1	0	1
計	8	8	0	1	4	3	12

《Ⅱ 支援の基本と作業支援》

1 ワークホーム高砂の利用者支援と作業支援の基本

- (1) 利用者支援の基本は、働くことを基本にして社会性・協調性（仲間意識）を育み、仕事に自信と責任が持てるような支援を行った。今年度は自分たちの働く場を自分たちできれいにすることをテーマに清掃活動にも力を入れた。また、個別支援計画書作成時にはより個々のニーズを反映させるため作成前にアセスメントシートを導入した。
- (2) 作業支援の基本は、就労継続B型事業所だけではなく生活介護事業所においても、「働く中でたくましく」「働く仲間を大切にする」を目標に、「大人としての働き方」を追求し、「就労移行支援事業所」や「A型事業所」「一般就労」へのステップアップを目指した。

2 作業内容

- (1) クリーニング作業 ゴトウ・アズ・プランニングと協力してクリーニング作業を実施
- (2) その他作業 ①ウエスの販売 ②楠公園清掃作業

3 クリーニング作業の主な取り組み

2024年度は、GOTOと協議を行い、作業量の調整を行った。8月にはGOTOの直営工場が稼働を開始し、布団類、リネン類の一部、タオル類の一部を移管された。これによりバックアップ体制が構築され、ワークホーム高砂における商品の滞留が解消。2月には工場全体の週5日稼働を実施した。

また、年度は安杖社長（ゴトウ・アズ・プランニング）、岡本執行取締役、中鉢氏、三原理事長、齋藤理事、長谷川施設長、亀山副施設長、楠課長で経営会議を実施。契約内容の見直しに向けた話し合いが行われた。また、議事録を双方で確認することで決定事項を明確にした。法定使用水量内での作業量となるように作業量を縮減した。引き続き利用者・職員の高齢化・重度化を考慮した作業量の調整を協議する。

4 クリーニング作業環境の改善（継続的取り組み）

昨年度に続き大型工事の実施は無かったが、8月のGOTO直営工場稼働で未洗濯商品の滞留が無くなったこと、全体的な作業量が減少したことで、朝の清掃や工場の風通しがよくなっている。

5 平均工賃

生活介護	27,721円／月
就労継続支援B型	48,655円／月

《Ⅲ 人権擁護、虐待防止の取り組み》

1 人権擁護・虐待防止の取り組み

法人に「虐待防止委員会」を設置。事業所では「虐待防止対策委員会」「身体拘束適正化委員会」を設置し、研修会やチェックリストを定期的に行うなど、利用者の人権擁護と虐待防止に努めた。チェックリストは2月に見直しを行った。12月には法人全体での虐待防止研修会を開催。

2023年3月に発生した不適切事案については、1年を通してチームとして議論を重ね、行政に報告書を提出した。

2 業務継続計画

- (1) 防災 事業所ではBCPの見直しを行い、4月に利用者の緊急避難先アンケートを実施し緊急時の連絡先の把握を行った。また、12月に法人全体でのBCP研修を開催。
- (2) 感染症 事業所ではBCPの見直しを行い、看護師による医務会議で法人全体としての動きを確認。毎月1回、看護師による感染症研修を実施。クラスター発生時の初動体制についても職員全体で確認を行った。

《Ⅳ 職員研修（施設外研修）・会議等（主なもの）》

月	研 修 名	場 所	参加者
5月	全日本自閉症支援者協会 近畿ブロック研修会	オンライン	3名
5月	高砂市危険物安全研修会	高砂	1名
5月	兵庫県知的障害者施設協会 定期社員総会	神戸	1名
6月	全日本自閉症支援者協会総会	東京	1名
6月	スーパーバイズを活用した実践報告会	オンライン	2名
7月	全国知的障害関係施設長等会議	東京	1名
7月	播淡地区職員研修会	姫路	4名
7月	てんかん講座	オンライン	1名
8月	兵庫県知的障害者施設協会 新任職員研修	明石	1名
8月	新任監督者研修	三田	1名
8月	播淡地区施設長・職員合同研修	姫路	4名
8月	就労系サービス管理責任者 スキルアップ研修	姫路	1名
9月	兵庫県知的障害者施設協会 初任者研修	明石	2名
10月	病院寝具管理士認定講習会	大阪	2名
10月	近畿地区知的障害関係施設職員研修会	滋賀	2名
11月	今と未来を考えるフォーラム	明石	3名
11月	播淡地区職員研修会	姫路	4名
12月	全日本自閉症支援者協会 岩手大会	岩手	1名
12月	就労支援フォーラム NIPPON	東京	2名
12月	障害者就労支援研修会	加古川	1名
12月	兵庫県社会就労センター協議会研修会（講師含む）	神戸	2名
12月	兵庫県強度行動障害支援者養成研修（講師含む）	オンライン	1名
1月	障がい者日中支援事業所連絡会	高砂	3名
2月	ひょうご発達障害者支援センター 記念講演	明石	3名
2月	兵庫県工賃向上研修（講師含む）	オンライン	2名
3月	兵庫県知的障害施設協会 実践報告会	神戸	2名
3月	就労選択支援モデル事業報告会	オンライン	1名

《Ⅴ 資格取得等》

資 格 名 称	取 得 者 氏 名
病院寝具管理士	2名
強度行動障害支援者養成研修（実践）	1名
安全衛生責任者	1名

《VI 地域支援、地域啓発活動など》

1 見学・実習の受け入れ等

今年度は事業所説明会を2回、初めての企画として7月～8月にかけて夏休みお仕事体験会を実施。
2月3月の説明会の案内は、東はりま特別支援学校、いなみ野特別支援学校に加え、新たに姫路特別支援学を訪問し行った。

事 項	内 容
特別支援学校保護者等 説明会	夏休みお仕事体験会 7月30日 8月6日 8月20日 8月27日の4日間開催 (10名参加) 2月24日 3月20日 特別支援学校の保護者や事業所職員を対象とした利用者獲得のための説明会 (延べ46名)
施設見学	10月18日 いなみの特別支援学校 (生徒24名 教師12名) 11月 7日 東はりま特別支援学校 (生徒35名 教師14名) 2月13日 京都府生産就労部会 (16名)
特別支援学校実習	10月 7日～10月11日 東はりま特別支援学校3年 (2名) 10月15日～10月18日 東はりま特別支援学校3年 (2名) 10月21日～10月25日 東はりま特別支援学校3年 (2名) 10月28日～11月 1日 東はりま特別支援学校2年 (2名) 11月18日～11月22日 東はりま特別支援学校2年 (1名)
学生社会福祉実習	本年度受け入れなし
社会福祉士実習	8月12日～9月12日 1名受け入れ 9月17日～10月25日 1名受け入れ

2 講師派遣

- ① 10月 NPO法人パレットが主催「行動援護従事者講習会」の講師として副施設長が講義
- ② 12月 兵庫県社会就労センター協議会研修会の講師として施設長が講義
- ③ 12月 兵庫県強度行動障害支援者養成研修の講師として副施設長が講義
- ④ 3月 兵庫県工賃向上研修の講師として施設長が講義

3 機関紙の発行

「月刊ワークホームだより」を毎月発行し、保護者に配布するとともにホームページで公表した。

多機能型事業所 納豆工房なっところちゃん 事業報告

I 利用者状況

1 定員と契約者数

(単位：人)

事業種別	定員	契約者数
生活介護事業	10	9
就労継続B型	10	8
合 計	20	17

2 市町別契約者数

(単位：人)

市 町 名	生活介護事業	就労継続B型	合 計
高 砂 市	5	8	13
加古川市	1	0	1
姫 路 市	2	0	2
播 磨 町	1	0	1
合 計	9	8	17

3 利用者年齢構成

(1) 生活介護事業

(単位：人)

年 齢		1 0 歳 代		2 0 歳 代		3 0 歳 代		4 0 歳 代		5 0 歳 代		合 計
性 別		～19		～24	～29	～34	～39	～44	～49	～54	～59	
男 性		0		0	0	0	1	1	0	4	1	6
女 性		0		0	0	1	0	1	0	0	1	3
合 計		0		0	0	1	1	2	0	4	2	9

	男 性	女 性
最小年齢	44歳 5か月	34歳 8か月
最高年齢	57歳 9か月	55歳 5か月
平均年齢	51歳 5か月	44歳 8か月
男女平均年齢	49歳	2か月

(2) 就労継続B型

(単位：人)

年 齢		1 0 歳 代		2 0 歳 代		3 0 歳 代		4 0 歳 代		5 0 歳 代		6 0 歳 代		合 計
性 別		～19		～24	～29	～34	～39	～44	～49	～54	～59	～64	～69	
男 性		0		0	1	0	3	0	0	0	0	1	0	5
女 性		0		0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
合 計		0		0	1	0	3	1	1	1	0	1	0	8

	男 性	女 性
最小年齢	26歳 0か月	44歳 11か月
最高年齢	60歳 0か月	50歳 10か月
平均年齢	40歳 2か月	47歳 2か月
男女平均年齢	42歳	10か月

4 利用者月別実人員・延人数

(1) 生活介護事業

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人員	8	8	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	106
延人員	148	156	151	164	149	138	162	152	157	135	135	152	1799

(2) 就労継続B型

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人員	7	9	9	9	9	9	8	9	9	9	9	9	105
延人員	138	171	154	166	166	173	157	164	161	164	156	172	1942

5 入退所・変更契約の状況（年間）

(1) 生活介護事業	入 所	1 名
	退 所	0 名
(2) 就労継続B型	入 所	6 名
	退 所	2 名

6 障害程度区分

(1) 生活介護事業 (単位：人)

	区分3	区分4	区分5	区分6	計
高 砂 市	0	2	2	1	5
加古川市	0	1	0	0	1
姫 路 市	0	0	2	0	2
播 磨 町	0	0	1	0	1
合 計	0	3	5	1	9

(2) 就労継続B型 (単位：人)

	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
高 砂 市	3	0	1	3	2	0	0	8
加古川市	0	0	0	0	0	0	0	0
姫 路 市	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	3	0	1	3	2	0	0	8

7 知的障害の程度（障害者（療育）手帳」の判定による）

(単位：人)

区 分	重 度	中 度	軽 度	な し	合 計
男 性	7	1	1	2	11
女 性	5	1	0	0	6
計	12	2	1	2	17
比 率	70	12	6	12	100

8 自閉症または自閉的傾向を有する者（入所時の諸書類を元に集計）

	男 性	女 性	計
人 員	4人／11人	3人／6人	7人／17人
比 率	36%	50%	41%

9 その他の障害、てんかん

(単位：人)

区 分	男 性	女 性	小計	合計
身体障害				
肢体不自由	0	0	0	
難聴	0	0	0	0
精神科薬				
てんかん	0	0	0	0
延べ人数	0	0	0	0

10 利用者の通所方法

(単位：人)

	徒 歩	自転車	バス	J R	山 電	付き添い通所
男 性	4	0	0	0	0	7
女 性	1	0	0	0	1	4
計	5	0	0	0	1	11

II 利用者支援、作業支援

1 納豆工房なっとこちゃんの利用者支援と作業支援の基本

以下の(1)～(6)を基本に支援を行った。

- (1) 利用者支援の基本は、働くことを基本にして社会性・協調性（仲間意識）を育み、仕事に自信と責任が持てるような支援を行うこと。また、個別支援計画を基本に個々の目標やテーマに沿った関わりを大切にすること。
- (2) 「働くことの基礎は生活にあり」を意識して、睡眠、食事、排せつなどの家庭における生活を見直し、「健康な生活づくり」を保護者やグループホームと連携しながら取り組むこと。
- (3) 個別支援計画の見直しを兼ねた個別懇談会を本人・保護者・管理者又はサービス管理責任者・担当支援員が同席して年2回（6か月に一度）実施した。

2 作業内容

- (1) 納豆製造作業
- (2) 販売・ショップ運営

3 主な取り組み

- (1) 「納豆工房なっとこちゃん」の設置と特徴

事業所の機能として、①納豆の製造を行う「作業場機能」、②納豆の販売や周辺の福祉事業所の製品も販売する「福祉アンテナショップ機能」、③納豆の製造や販売、製造現場の見学などをとおして障害者理解を深めていただく「啓発的機能」がある。

- (2) 販売の取り組み

- ① 直販店（27事業所）

自主生産する「なっとこちゃん」の販売に加え、福祉事業所等から商品を仕入れ「福祉アンテナショップ」としての機能充実を図った。

取扱店

企業・協同組合、福祉施設が運営する店舗に出荷した。

ヤマダストア株式会社全9店舗（阿弥陀、花田、北野、新青山、網干、新辻井、朝霧、須磨離宮公園前、六甲アイランド店5/11オープン）、JA兵庫南6店舗（にじいろふぁーみん、ふぁーみん高砂、神吉、八幡、播磨、二見）、JA兵庫西旬彩蔵、元気工房さよう、ポタジェビオ、ごりんや、ごえん、リトリートフィールド、わかばや、高砂市観光交流ビューロー「結びん」、ヨシケイ播州、稲美乳販（12法人22店舗）

2022年2月 ヤマダストア株式会社の神戸方面への事業拡大に伴い、朝霧・須磨離宮公園前の両店舗への配送業務は同社物流センターへの委託（センタフィー）。

※ 2022年7月からセンタフィーをヤマダストアー全店に適用。

- ③ 通信販売

- ・ 2021年6月からStores（ストアーズ）で販売開始
- ・ 株式会社健康ライフ（通販）に出荷
- ・ 2022年12月からふるさと納税を開始

- (3) 社会貢献

- ① こども食堂への納豆寄付（4月、7月、11月、12月、1月）
- ② トライやるウィーク（松陽中学3名の受け入れ 11月）

4 工賃支給

生活介護	23,557円/月
就労継続支援B型	45,753円/月

Ⅲ 人権擁護、虐待防止の取り組み

1 虐待防止の取り組み

虐待防止では、担当職員が中心となって職員一人ひとりが障害者の人権について考える機会を設け、人権意識の向上をめざした。また、引継ぎ時間を活用し、虐待について施設長やサービス管理責任者が職員会議で問題提起するなど職員の意識向上に取り組んだ。

2 本年度の取り組み

法人で「虐待防止委員会」を設置、当事業所では「虐待防止対策委員会」「身体拘束適正化委員会」を設置し、研修会やチェックリストを定期的に行うなど、利用者の人権擁護と現場における虐待防止に努めた。職員間で互いの支援方法などについて意見が出しあえる環境や客観的に自分を見つめ直し支援をふり返ることが虐待防止につながる。定期的に職員間で話し合う場を設け自己を見つめ直すよう取り組んだ。12月には全職員を対象とした「法人虐待防止研修会」を実施した。

Ⅳ 業務継続計画

- ・ 防災 事業所ではBCPの見直しを行い、4月に利用者の緊急避難先を確認し、緊急時の連絡先の把握を行っている。また、12月に法人全体でのBCP研修を開催。
- ・ 感染症 事業所ではBCPの見直しを行い、看護師による医務会議で法人全体としての動きを確認。毎月1回、看護師による感染症研修を実施。クラスター発生時の初動体制についても職員全体で確認を行った。

V 職員研修（施設外研修）・会議等（主なもの）

月	研 修 名	場 所	参 加 者
7	播淡地区職員研修	姫路	1
	加古川養護学校センター的機能研修	加古川	1
8	兵庫県知的障害者施設協会 新任研修	明石	1
	新任監督職研修	三田	1
9	初任者研修「意思決定支援」	明石	1
	生産就労部会 事業所見学会 株式会社「ジルベルト」	神戸	2
10	サビ管基礎研修	オンライン	1
	近畿地区知的障害者福祉施設関係職員研修	滋賀	2
11	第2回播淡地区職員研修会	姫路	1
	生産就労部会 就労支援Fフォーラム 「就労選択支援」「雇用支援ビジネスとは」	明石	2
	サビ管研修講師（ファシリテーター）	明石	1
	近畿地区生産就労部会研修・商品展示会	奈良	2
12	法人ハラスメント研修	法人	4
	兵庫県社会就労センター協議会研修会	神戸	講師：1 受講：1
1	基幹相談 高砂日中支援事業所連絡会	高砂	1
3	兵庫セルフ 工賃向上研修	赤穂	講師：1 受講：1
	兵庫県ユニバーサル推進課 農福連携フォーラム	小野	2

IX 資格取得

名 称	参加者
強度行動障害支援者養成研修（基礎・実践）	2
サビ管基礎研修	1

X 地域支援、地域啓発活動など

- 1 見学・実習の受け入れ等
 - (1) 大学生実習 兵庫大学2名 ソーシャルワーク実習（2月、9月計6日間）
 - (2) 特別支援学校 実習生2名（東播磨2名）
- 2 機関誌の発行

月刊なっとこちゃんだよりを発行、保護者、関係者に配布した。
- 3 情報の発信

Instagramフォロワー数 4,200件(2025年) (2023年1,573件 2024年3,090件)

4月 チラシデザイン更新

10月 Kiss FM神戸 の番組「シャカリキ」商品紹介

2月 『納豆図鑑50』（村上龍一 著）に掲載

地域支援センター あいあむ 事業報告書

‘2024 (R. 6) 年度 地域支援センター あいあむ 実施事業

	事業名	事業開始年月日	
1	障害児相談支援事業	’ 1 2 (H. 24). 4. 1	高砂市指定
2	計画相談支援事業	’ 1 2 (H. 24). 4. 1	高砂市指定
3	指定一般相談支援事業所(地域移行・地域定着)	’ 1 3 (H. 25). 4. 1	県指定
4	障害者等相談支援コーディネート事業	’ 0 7 (H. 24). 1 0. 1	県委託事業
5	高砂市障がい者自立支援協議会運営等事業	’ 1 3 (H. 25). 6. 1	高砂市委託事業
6	誰でも立ち寄りステーション運營業務 (高砂市障がい者自立支援協議会運営等事業の新規事業として)	’ 2 4 (R7. 4). 4. 1	高砂市委託事業
7	高砂市障がい者基幹相談支援センター	’ 1 9 (R. 1). 4. 1	高砂市委託事業

地域支援センターあいあむは、入所施設で培った自閉症療育等の専門性等を“地域に返していく”という方針のもと、ご本人・ご家族が地域で安心して暮らすことが出来るように「相談支援」・「地域づくり・人材育成」の2本柱を中心に、7つの事業を展開し東播磨圏域における地域支援の拠点を目指して活動を行った。

新型コロナウィルスも昨年度に5類感染症へと移行し、今年度は今まで通りの相談支援活動や研修会に戻り充実した1年であった。年度を通して多様化する課題に対し、チームで支援を行い「本人中心支援」の合言葉を念頭に丁寧な支援を心掛けた。一方で法人の活動として第2回法人事例研究会の主幹事業所として6月22日に行われた研究会の運営と事例発表等を行うことができた。

I 実施事業

- 1 障害児相談支援事業 ※終了者等も含む
06年10月1日より事業開始(県指定) その後、制度改正により12年4月1日から高砂市指定により事業開始
計画作成者 67名(高砂市59名 加古川市8名)
- 2 計画相談支援事業 ※終了者等も含む
06年10月1日より事業開始(県指定) その後、制度改正により12年4月1日から高砂市指定により事業開始
計画作成者 244名
(高砂市:135名 加古川市:65名 播磨町:10名 稲美町:3名 神戸市:9名 加東市:1名
姫路市:15名 小野市:1名 豊岡市:1名 名古屋市:1名 尼崎市:2名 大津市:1名)
- 3 指定一般相談支援事業所 (12年4月1日より県の指定により事業開始)
(1) 地域移行支援 実施者 0名
(2) 地域定着支援 実施者 3名(加古川市1名、高砂市2名)

II 職員研修

1 職員研修内容 (基幹センター職員は別紙記載)

月 日	研 修 内 容	研修地	参 加 者
6月19日~ 21日	相談支援従事者指導者養成研修	埼玉県	1名
6月22日	法人事例研究会	高砂市	8名
7月1日	令和6年度兵庫県相談支援従事者現任研修(講義)	ZOOM 受講	1名
7月9日	法人感染症対策研修	高砂市	2名
7月10・11・ 12日	令和6年度兵庫県相談支援従事者現任研修(演習)	加古川市	1名
11月18日	精神障害者地域移行研修会・地域移行推進連絡会	加古川市	1名
12月5日	障害者就労支援研修会	加古川市	1名
12月7日	法人虐待研修・ハラスメント研修	高砂市	8名

ひょうご発達障害者支援センター 事業報告

I 県レベル的活動

1 重点的取り組みに対する総括

(1) 一般市民への普及啓発の促進

開設 20 周年記念講演会を開催した。当日は 175 名の方に参加いただき、関心と期待の高さを実感した。「発達障害支援のこれまでとこれから」をテーマに実施したが、講演、シンポジウムともにこれまで最前線で支援や仕組みを作られてきた方たちのお話を聞き、これからどういったことが必要であるか、参加者とともに考える時間になった。

発達障害の認知度が増す中、改めて一般市民に正確な知識を学んでもらう機会が必要であると感じた。

(2) 発達障害実務者養成講座の充実

発達障害支援の支援者の広がり、ニーズの多様化を踏まえ、研修内容をニーズに沿った形に変更するための検討を行った。変更点は、①これまで、児童期、成人期に 3 日間ずつ分けて行っていたが、成人期 児童期を分けて、全 7 日間を日ごとに受講可能とする。②「LD のアセスメントと具体的支援」、「発達障害のある人の非行・触法への具体的支援」、「強度行動障害のある人への具体的支援」、「WAIS-III を中心したアセスメントと具体的支援について」を新たにプログラムとして加える。

上記の内容の検討を行うとともに、令和 7 年度実施に向けて講師や会場の調整を行った。

(3) 児童期への支援の充実

クローバー ペアレント・トレーニングは、全県で 11 か所の児童発達支援事業所で取り組んだ。

保幼子ども園へのコンサルテーションは、市町の事業として取り組んだランチもあった。定期的に訪問を行い、対応助言を行う。34 か所 36 件のコンサルテーションを実施。

(4) 市町相談支援体制の強化

市町発達障害窓口研修を全県で実施。全県で統一した内容の講義と各ランチが地域の課題に即した内容で実施した。

市町窓口向けに事例検討、対応助言等を行うコンサルテーションを実施したランチがあった。

(5) 支援機関でのプログラム定着実施と今後の方向性の検討

クローバーペアレントトレーニングは 3 年間の継続定着に向けた支援を行った。今年度は 5 か所に支援を実施。また、一旦実施定着を終えた機関から再度、支援の依頼のあった機関への支援も行った。他には講義資料の変更等実施機関に配布するマニュアルの改訂、増刷を行った。

クローバーCRAFT プログラムは 5 か所で取り組んだ。新たに一緒に取り組める機関を増やすことを目的に、プログラムの詳細を説明や演習を盛り込んだ研修会を実施した。

ストレスマネジメント講座は、全県で 2 か所実施している。また、ストレスマネジメント講座について、より効果のある対象機関を検討するため企業(特例子会社)で実施した。

2 事業実施状況

(1) 普及啓発・研修

① 研修 (実 8 回 延 12 回、延参加者数 592 人)

② 講師派遣(県レベル機関の研修会、就労支援に関する講師派遣など)(延 17 件 延参加人数 751 人)

③ ホームページの運営、管理

内容	概要(件数、内容他)
更新回数	24 回(研修会情報等)
訪問者数	延 14,170 人(前年比-571)
見られたページ数	延 55,332 ページ

(2) 調査・研究

市町経由相談実施後の相談状況の検証と発達障害者支援センターの役割の研究の中で、市町経由相談の傾向と相談内容や対応方法の集約を行った。

(3) 機関連携

① 連絡協議会の実施 実施回数 (延 2 回)

② ネットワーク会議等への出席 実施回数 (延 26 件)

主な会議名	役割
厚生労働省 発達障害の情報提供等事業に関する運営会議	委員
発達障害教育情報支援センター 発達障害教育の情報提供等に係る検討会議	委員
発達障害者支援センター 全国連絡協議会	会長
全日本自閉症支援者協会	理事
兵庫県 発達障害者支援協議会	委員
発達障害者支援協議会 生活支援部会	委員
発達障害者支援協議会 医療部会	委員
発達障害者支援協議会 教育部会	委員
障害者雇用・就業支援ネットワーク会議	委員
障害者自立支援協議会相談支援部会	委員
広域特別支援教育連携協議会	委員
特別支援学校就職支援推進会議	委員
通級指導運営協議会	委員
ひょうごユースケアネット推進会議 代表者会議	委員
ひょうごユースケアネット推進会議 実務者会議	委員

③ブランチ業務調整会議（年 10 回）

センター各ブランチ間の業務上の調整、意見集約、関係機関情報の集約、活動に対する意見交換等を行う。
また、職員の専門性向上を目的にした事例検討会も行った。多くの職員しやすいよう、ハイブリット形式で実施した。委託元である兵庫県障害福祉課も参加し意見交換を行った。

II ブランチ的機能(担当圏域:東播磨、淡路)

1 重点的取り組みに対する総括

(1)ひょうご発達障害者支援センター作成プログラムの普及促進

各プログラム 1 か所以上実施することを目標にしていたが、①クローバー ペアレント・トレーニングは子ども支援センター スマイルで実施、②クローバーCRAFT プログラムは加古川市役所で実施、③ストレスマネジメント講座は、日本パーソネルセンターでそれぞれ実施した。しかし、②、③については次年度実施予定がなく、プログラムの目的である地域で取り組んでいまだに提供できていない。

また、ストレスマネジメント講座は、効果が期待できる適切な機関を検討していく必要がある。

(2)ペアレントメンターの取り組み

ペアレントメンター講演会を宍粟市で開催した。30名の参加があり参加者からは、「実体験の中で考えてこられたこと、悩み、苦勞、喜び、学び、具体的にお話を聞かせていただけた。大変勉強になった。」との感想が聞かれた。

洲本市ではペアレントメンター養成講座を実施した。4名の参加者があり、面接の留意点、電話相談の留意点、サポートファイルの作成の講義と相談のロールプレイを行った。

(3)市町支援体制の充実

東播磨、淡路地域の発達障害相談窓口担当者並びにその他支援者の研修会を実施。東播磨 8 名 淡路 52 名の参加があった。東播磨地域では、発達障害の基本的理解の内容に加え、相談票を使ったアセスメントについて講義と演習を行った。淡路地域は、発達障害の基本的理解、ライフステージごとの支援の状況(事例)の講義に加え、相談票を使ったアセスメントについて講義と演習を行った。

市町発達障害窓口に向けたコンサルテーションは、東播磨地域の各窓口以案内を送付し説明を行ったが実施希望は挙げられなかった。次年度、より内容を具体的に説明し実施できるようにしたい。

2 事業実施状況

(1)普及啓発 研修

①研修 実施回数(実 4 回 延 4 回 延参加人数 100 人)

②講師派遣 実施回数(延 8 件 延参加人数 248 人)

(2)コンサルテーション

①関係機関へのコンサルテーション 実施回数(実 1 か所 延 4 件)

職員の対応方法や環境整備に関する助言・指導を訪問により実施。

②クローバー ペアレント・トレーニング 実施回数(実 1 か所 延 7 件)

講座実施に当たり、児童発達支援事業所のスタッフへの技術付与を訪問により実施

③クローバーCRAFT プアログラム 実施回数(実 1 か所 延 9 件)

講座実施に当たり事業所のスタッフへの技術付与を訪問により実施

③ ストレスマネジメント講座 実施回数(実 1 か所 延 9 件)

講座実施に当たり、児童発達支援事業所のスタッフへの技術付与を訪問により実施

(3)相談支援

①相談支援 (実 268 延 1,507 件) (昨年度:実 284 人、延 1,579 件)

幼児期の相談では子どもの発達障害に関する特性を踏まえてどのような関わり方を行っていけばよいかわきたいといった保護者のニーズが基本的なあり、本人の様子を伺いながら発達障害の特性について説明を行い、適宜助言等を行っていった。その他に初回相談の際には医療機関につながり始めた段階であってその後の流れがわからない、本人の状態は福祉サービスを使った方がよいのかどう判断してよいかわからないといった相談も見られた。前者については現段階とその後予想される流れを説明し、後者では療育が必要と考えられたケースであったためその説明を行い、基幹センターと連携したうえで相談支援員や児童福祉サービスへとつなげた。

小学生年代の相談では開始時すでに医療機関や福祉サービスと繋がっていることが多く、相談の内容としては関りの難しい場面に対してどのように理解し関われればよいかわかる内容が多かった。そのため相談内では保護者自身が難しさを感じた場面の聞き取りを行いながら、見立てや関りのポイントを伝えることを重点的に行った。また不登校や登校しぶりを伴うケースも多く、学校と会議や電話連絡などを通して情報共有を行いながら支援方針の調整を行うなどした。

中高生の傾向としては、不登校、それらが高じて入院や保護されている事例や触法事例が変わらず見られた。

“学校”と名のつくところを受け付けなくなってしまう不登校の事例では、環境設定について支援者間での綿密な情報共有の元、“チャレンジ”と称して学校での授業参加に挑戦した。少しずつペースを上げ、年間を通じて(期間は開くが)通学を継続できるようになっていった。

高校生年代の相談では、幼少期に障害認定があり、学齢期は支援を受けてきた経過がありつつも、高等学校へ進学している方の相談も増えている。トラブルを機に繋がることが多く、まずはその対応を協議することになる。ただ、経過を聞いてみると、高校進学時の引継ぎの理解が十分ではない事例が多く見受けられ、義務教育から外れていく高等学校への進学時の対応には課題が見受けられる。

一方、特別支援学校に所属する障害程度として中度～重度のお子さんの親御さんからの相談も増えてきている。所属学校で大きなトラブルはなく、福祉サービスも定期的利用をされておられるが、支援学校卒業後に児童から成人へとサービス体系等が変わることを踏まえての将来についてのご相談の希望がある。

成人期の相談では、発達障害の特性だけではなく、二次障害(例:強迫性障害、不安障害)の発症のために、社会参加への困難さが増してしまっている相談も多く見られた。不安等を抱えながらも、今できていることへの焦点化を行いつつ、本人の動くタイミングに合わせて寄り添う姿勢を続けていくことを意識している。また、家にいる期間が長くなってしまっている事例でも、本人との面談が出来るようになってきていることも増えてきているので、関係性を築きながら、出ていけそうな居場所と一緒に探していくことを検討している。前年度同様、親御さんご自身にも発達障害や精神的なしんどさがあり、発達障害のある子どもを育てておられる事例が見られた。子どもの言動の理由と一緒に考えた上で、具体的な対応方法を助言・提案することを繰り返し、少しでも関わりの一助になればと思って相談をお受けしていた。何よりも孤立してしまわないように、定期的に会うことでの息抜きや安心、日々の振り返りを少しでも感じていただけたら、という側面も意識している。

②発達支援 (実 29 人、延 114 件) (昨年度:実 39 人、延 118 件)

就学前児童の年代では保護者を主とした相談が多く、相談内で本人に対する発達支援を行えなかった。

就学児に対しては保護者には家庭でのかかわりを理解してもらう、本人に対しては友人へのかかわり方や状況の判断について考えてもらうことを目的として支援を行った。前者については家庭学習の難しさをあげられた事例では、実際に相談員と子どもとで学習する場面を見せたり、保護者とかかわりのポイントを探る形とした。後者はプリントの教材を使用し本人が自ら気づいて記入できるようヒントを出す形で取り組んでもらっている。当初は「わからん」と言ったり相談員のアドバイスをそのまま記載するなど内容の乏しかつ児童でも少しずつ自ら考えて書く姿勢が見られるようになっていった。

中高生では、不登校の事例で既存の福祉サービスに繋がらない方の定期的来所が継続できる場所として利用した。非行、触法事例へのアセスメントも含めた支援や、学び方の異なる生徒への学習支援も引き続き行った。実施後、所属機関や関係機関の方へ実施内容や結果についても報告し、どのような環境設定があれば継続的に支援が行えそうかを検討するようにした。

義務教育が終了した高校生年代では公立私立を問わず、高校生になったものの登校日数や成績が足りずに退学となり、行き先がなくなってしまう相談へ繋がる事例が増加した為、高校生の保護者のグループを開催し、福祉サービス事業所への見学等を含めた内容で実施した。

③就労支援（実 69 人、延 240 件）（昨年度：実 55 人、延 213 件）

前年度比で実、延共とも増加している。（実+14 延+27）

就労移行支援事業所を利用して就労をした後、定着支援制度を利用し、この度、期間が終了する事例が出てきた。その後の他機関の支援を希望しない事例では、今後もクローバーが相談を継続していくので、ご本人や職場の人の混乱にならないように企業との関係性を丁寧に築いていきたい。また、既に職場訪問をしている事例では、本人との面談やその内容をもって職場の人との面談を行うことで、顔の見える関係性を築き、発達障害の観点からの関わりの助言を行った。また、就労を視野に入れている事例では、これまで同様に、今後の方向性の指針として職業評価を受けてもらうことを勧め、自己理解へと繋げてもらった。

(4) 機関連携

①発達障害者支援体制の整備及び機関連携のためのネットワーク会議等への出席

実施回数(延 29 件)

会議名	役割
加古川市 障害者雇用連絡会議	委員
障害者自立支援協議会 こども部会	委員
高砂市 障がい者自立支援協議会 全体会	委員
教育委員会	専門家チーム委員

②個別調整会議 実施回数(延 29 件)

一番多いのは成人の相談者の会議で、一人の人に関わる機関が多く、支援の方向性の確認をするため行われる会議が大半である。その中で、本人の見立てや関わりかたについて助言を求められることが多い。

③付置施設 あかりの家との連携

	内容
児童デイ サービス あかりの家	・継続的な専門的療育を行うことが有用と思われる事例（自閉症、軽度知的障害）
障害者支援施設 あかりの家 地域支援センター あいあむ	・福祉サービスの利用が必要な事例について、相談支援専門員と連携をした事例が多数 ・サービス等利用計画の作成において連携した事例

(5)調査・研究

・市町経由相談実施後の相談状況の検証と発達障害者支援センターの役割の研究の中で、市町経由相談の傾向と相談内容や対応方法等の集約を行った。

Ⅲ 職員体制

1 相談時間 月～金の平日 9:00～17:00

2 職員研修

研修名	日付
全日本自閉症支援者協会 近畿ブロック	5.24
発達障害者支援センター全国連絡協議会 研修会	6.9～6.10
あかりの家 事例研究会	6.22
ひょうご発達障害者支援センター職員研修	10.3
あかりの家 虐待防止研修	12.7
全日本自閉症支援者協会 全国大会	12.9～12.10
発達障害者支援センター全国連絡協議会 近畿ブロック研修会	12.21
全日本自閉症支援者協会 近畿ブロック	R7.3.17

3 職員の資格・免許取得状況(含、任用資格、受講証明)

資格・免許	人	資格・免許	人
公認心理師	3	教諭	2
臨床心理士	3	WAIS - III 知能検査研修受講	1
社会福祉主事	1	K-ABC II ベーシック講習会	1